

平成27年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会

《 開催地市長歓迎挨拶 》



皆さん、こんにちは。開催地の敦賀市長の渕上でございます。

4月に市長になりましてまだあんまり慣れてませんので、皆様の前でしゃべるのは苦手でございますがどうぞよろしく申し上げます。

本日、敦賀市においでくださいませして本当にありがとうございます。今日第3次安倍改造内閣が発足されまして、地元の高木毅代議士が復興大臣になられまして地元としましては、今すごく喜びに沸いているところでございます。また、敦賀市には、敦賀気比高校がございまして、甲子園で春の選抜では優勝ということをさせていただきましたが、夏は残念ながら2回戦で敗退ということで、そういうところでもにぎやかな場所でございます。このたび平成27年度日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会が、この敦賀の地で盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、遠路はるばる敦賀の地へお越しいただきました皆様方に、心から歓迎を申し上げる次第でございます。また日本海にぎわい・交流海道ネットワークにおかれましては、港湾を核とした日本海沿岸地域の交流の拡大に、多大なる貢献をされてこられましたことに、心より敬意を表する次第でございます。

さて、記憶に新しい2011年の東日本大震災では、日本海側の港湾が代替輸送の機能をいかんなく果たし、被災地の復興と復旧に大きく貢献致しました。そこで南海トラフ巨大地震等の大規模災害による災害リスクに備えた国土強靱化の観点からも皆様との連携を強め、今後この点を含めた日本海側の港の役割についても再確認が必要になるかと思っております。初めて敦賀にお越しいただいた方もおられると存じますが、この敦賀市は、三方を山に囲まれ、もう一方を日本海に面した人口7万人弱の街でございます。

日本列島のほぼ中央に位置しまして、関西、中央圏にいちばん近い日本海側都市という恵まれた環境を生かし、港とともに栄えてきたという歴史がございます。また昨年舞鶴若狭自動車道が全面開通されたことによりまして、京阪神との時間距離も短縮されさらなる交通の利便性が向上いたしました。また、敦賀の港の歴史は長く、江戸時代には北前船の中継地として、また明治時代にはウラジオストックへの定期航路が就航していたことからヨーロッパへの玄関口として、重要な役割を果たしてきた港でございます。今日の講演会でもございますが、第2次世界大戦当時、杉原千畝氏がヨーロッパで迫害に苦しんだユダヤ人に対し、人道的観点から日本通過の命のビザを発給した歴史がございますが、実は、この命のビザを持ったユダヤ人が、上陸した日本で唯一の港こそが、この敦賀の港でございます。こうした歴史の深い港でございますが、近年は水深14mを誇る国際物流ターミナルの完成、釜山へのRORO船航路等の就航のほか、北海道苫小牧へのフェリー、RORO船定期航路の就航により、内交外交共に重要な港として機能しております。このほか敦賀には魅力ある観光地、食がたくさんございます。日本三大松原の一つであります気比の松原や、国の重要文化財に指定されており日本三大木造鳥居の一つであります気比神宮などがあり、市外県外からも毎年たくさんの観光客が訪れておられます。また食につきましては敦賀名産のおぼろ昆布をはじめ、毎年11月6日に解禁されます、越前ガニや敦賀フグなどの魚介類から敦賀ラーメンやソースかつ丼などのB級グルメまで幅広くお楽しみいただけます。お集まりの皆様方には2日間という短い期間ではございますが、敦賀の街を十分に楽しんでいただきたいと思います。最後になりましたが、日本海にぎわい・交流街道ネットワークを通してそれぞれの地域がより繁栄していきまるとともに、皆様方の今後の益々のご活躍をお祈りいたしまして、歓迎のあいさついたします。本日はどうぞよろしくお願いたします。